

3. 応募テキスト：「家族の変様・住宅街のコミュニティ・継続性」をキーワードとして「住宅にはどんな可能性があるか、その時の設計のあり方」について（文字数：800字以内）

#### ■住宅にはどんな可能性があるか

住宅は、建築の用途の中で最も身近で一般的であると同時に、住み手一人の考え方をダイレクトに反映できるため、他の用途に比べて特殊解となることが多い用途だと考えます。そのためか、国内外を問わず、挑戦的で新しい、その時代に合った建築の在り方が、住宅から試行され生まれていると感じます。住宅には、常に変化してゆく時代を映し出し、同時に時代を更新し変化させてゆく可能性があると考えます。

#### ■その時の設計のあり方

その時代に合った家族の在り方の変様を捉え設計することはもちろん重要ですが、それと同時に時を経ても失われない時を経ることで魅力が増し、より愛着を持つことが出来るような建築として設計することが必要だと考えます。

コロナウイルスにより、働き方・住まい方・考え方が大きく変わり、地方への移住者が増加しています。それと同時に、地方ではないが都心に出やすい郊外への需要も高くなっています。私自身も東京郊外に可能性を感じ、事務所を東京郊外の東村山市に移転しました。また現在、東村山に住宅兼アトリエを設計しています。そのプロジェクトと類似性を感じ、今回コンペへ参加したいと考えました。

住宅街のコミュニティについては、様々な取り組みが各地で行われていますが、それをそのまま行うだけでなく、その場所に合った住宅街のコミュニティの在り方を、少しずつ変わる時代に合わせ継続的に、模索し考え実行し続けることが重要だと考えます。

そのような、まだ分類されていない言葉になっていない用途を、的確に捉え、寄り添う建築を設計したいと考えています。またそれが結果として、新しい建築をつくることにつながると考えています。